科目ナンバリング	U-LAS70 10001 SJ50						
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー ：日本古代・中世政治文化論I ILAS Seminar :Politics and Culture in Ancient and Medieval Japan I			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　　吉江　崇		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・ 開講期	2025・前期	受講定員 (1回生定員)	12 (12) 人	配当学年	主として１回生	対象学生	全学向
曜時限	月5	教室	共西12			使用言語	日本語
キーワード	日本史関連 / 平安時代 / 陰陽師 / 陰陽道						

（総合人間学部の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

【日本古代史研究書入門】
１冊の研究書を受講者全員で輪読し、日本の政治・社会・文化に対する歴史的思考力を高めることを目指す。大学生や一般の人を読者層として想定した、簡易で比較的新しい書籍を取り上げるが、記述の背景を調べ、根拠となっている文献史料の原典を読解することによって、記述内容を批判的に検証する。そうした作業を通じて、歴史に対する思考力・感覚・想像力を磨くことを目指す。
今期は、中島和歌子著『陰陽師の平安時代』を取り上げ、平安時代における陰陽師の実態について考える。

[到達目標]

古代・中世の日本の歴史に関して正確で幅広い知識を獲得するとともに、文献史料の原典を自分の力で読解し、提示された学説を吟味して、自分の見解を対置する能力や、歴史像を組み立てるための技術を身につける。

[授業計画と内容]

平安時代中期以降の皇族や貴族にとって、陰陽師は、是非とも頼りたい存在であった。陰陽師の役割は、一つには、未知・未来を解明し、依頼者の心を落ちつかせる占いを行うことにあったが、陰陽師が実施する占いの方法は、式盤を用いる式占であった。式占には、遁甲式、太一式なども存在したものの、怪異や病を扱う占いとして、平安時代に多く用いられたのが、六壬式盤を使った六壬式である。人々は、陰陽師が行った怪異占の結果を受け、しばしば物忌を行った。人々は、陰陽師に依頼して祭祀を実施してもらうこともあった。陰陽師が行う陰陽道祭祀は、神や鬼などに対して供物を捧げるもので、その代表は、水辺などに祭壇を設けて神々を祭る祓である。その他にも、地鎮・宅鎮、反閇・禹歩、呪詛など、さまざまな形で陰陽師は、人々のまじないに携わっていた。占い、まじないに加えて、日時・方角の禁忌に関わる管理・勘申も陰陽師の職務であった。自然災害の発生、政治体制や社会機構の不安定さ、文化・文物の輸入などが、平安時代における陰陽道発展の要因となったと考えられる。
中島和歌子著『陰陽師の平安時代』を輪読しながら、こうした平安時代の陰陽師の実態を把握する。あわせて、根拠とされる資料を分析し、内容の可否を検討する。

第１回　イントロダクション
第２回　なぜ「いんようじ」ではなく「おんようじ」なのか
第３回　陰陽五行説、干支の基礎知識／占いの種類
第４回　災害・怪異の占い／六壬式・六壬占
第５回　物忌とは何か
第６回　心身の不例に関する占い／その他に六壬式で占ったこと／広義の陰陽師へ、陰陽道の成立へ

ILASセミナー ：日本古代・中世政治文化論I(2)へ続く↓↓↓

ILASセミナー ：日本古代・中世政治文化論I(2)

第７回　陰陽道祭祀
第８回　どのようなときに祓（禊・解除）を頼むか
第９回　安全・安心をもたらす呪術と危険な呪術
第１０回　暦について
第１１回　日の吉凶／八卦忌とは何か
第１２回　方角の吉凶
第１３回　平安時代の陰陽師・陰陽道から現代へ
第１４回　総　括
《期末試験》
第１５回　フィードバック
　※上記の各回の内容は取り上げる書籍の目次による。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（授業内での報告および発言・５０点）と期末試験（レポート・５０点）の合計で成績評価する。

[教科書]

中島和歌子 『陰陽師の平安時代　貴族たちの不安解消と招福』（吉川弘文館）ISBN:978-4-642-30601-0（2024年刊行、1900円＋税）

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

全体の進行をあらかじめ通知するので、各回の輪読個所を読み、授業内容を想定しながら予習をすること。

[その他（オフィスアワー等）]

授業はゼミ形式で、発表および質疑への参加が必須である。

[主要授業科目（学部・学科名）]